

花摘

上局

從四月八日



花つみ

元祿を年の事るや母なるよ
消まりしよ空をさつる花
悲しむ色もなほ守る多かり
もれえ思ふ色長かりませ
心よし涙の向付りしを彼
祇云ふ一とせの日はもおもむ

つらまのれせし海山の情色



舟のあらしをききて法論韻佛
をあのるよ入とのみあしあ
けんいさ我ら銀々の人
まくねおれつく 柳のその
かまつくく一夏百句みぢるれを
花摘と名付ゆる也その日を
夜のらん年の句に結縁とけし
三句句れまよこれとりか

十一日 高住も南師才
つふあよ八日 訛りん

一燈礼 真角述

八日 上行寺

灌佛や墓くくせくへる様云

帰るとあしひかる
三

西うとくはあな加部や
母のる

彫棠

九日

二ノ雨ノ瀧山ノ

下ノ木ノ

角

僧釣雷ノ

カクリケ

羽黒

一ノ軍ノ辰ノ

桐ノ

露丸

十日

宗竹ノ

送リモノ

カクリケ

カクリケ

一ノ松ノ

汗拭

魚

十一日

郭公ノ

色

同

三月十日

念仏

一ノ向ノ

清水寺

山ノ

行毎

非ノ

幽水

ねノ

蝶

十二月

東叡山院

僧正ノ

柵

角

十三日

けノ

洞

同

上校三

十卯日

浅草川遠遊

了由七以也

烟代子

火取よ、夜ヨレの小屋

角

十五日

雨

紙合羽より一やうの世に
夜念仏

同

十六日

黒牡丹祓の祈り
西明北京の祈りのよ

大なる毛

同

十七日

乳云幟のあよみ
ある人の夜子

同

十八日

雨

山根実と
底白くお粉
ついでに右に

彫棠

秋色

白糸石葛よりおつ價アタイ

角

十九日

自愧

夜あつくと母
痛いのも

同

自棄

下帯やゆ屋に
くあゆ

音
玄素

閑居

くちけいひや
のまのまのま
単一をまのま

教忠のこいし

我や何れと
招極 こいし 上宅

山境へ来た松戸の曇り 伊賀 魚口

心よりおゆるみ木を 同

桃のむねがゆるみ 同 野狐

是の日をゆるみ 同 和津

廿四日

宗長への宛て

楊のつらき

花のこころ

つらき

牡丹芳のつらき 僧 羨羨

廿五日

奉納

衣湯のつらき

一時も今この如月 角 價の 由水

柳菴昼卧

好むはつらき 上花 琴風

庖丁う半何とさく

さしつゝ 輕と 主政 百里

能城の成をえん夕涼同

廿六日

金豊

交乃とさく亦に 料池 角

廿七日

短衣や新日仔らの 納を解く 同

膳所くすく人

秋のあつては 羽黒山の翁

廿八日

あつたあつた

内川やあつた 泉の蛙 角

は目赤の飽く翁の脚の
おかしー羽黒山於本坊真
行のあつたをむく

元禄二年六月

の新や雪をのく 翁

反はと人のしよのなる草 露丸

50 川舟の繩の蜜をいさく 曾良

鶺鴒のむちをいさく 釣雪

三月

此の天とくくする妹の昏 殊妙

山をももつてぬり所 梨水

眠して昼の陰カケリの空をみて 釣雪

百里の猿を木曾の牛追 翁

山つらぬ城の記を書ん 高丸

茅野をくむ神木の森 曾良

あまみの跡をひり家 釣雪

豆うしを食ふと 啼く鬼 露丸

石佛所をさるるな 樽の昔 翁

系はる木折るくの花 深水

月見を引起されし歌 比 曾良

響あふがれる羅カスモノの海 翁

月見を引起されし歌 花れし 露丸

的場の末と嘆る山 山 釣雪

十
まをを物しセのまの力石 海

ほくくく醒井の水 高丸

上巻

足川のこゝろとてののり 蓑 圓入

歌の門又ニ収める さら

70 かさねるををのり 地味也 露丸

毒のいよるう山犬の命 翁

くはあハ椽ト千の枯葉の上寒く 梨水

湯の香よくきこる旭淋 ま 露丸

絶ハサニの香と竹者の矢と 釣雪

徳天のけりば 長きうの法 円入

月山の嵐のゆが骨はじ あま

飛流の火のこゝ電の記 梨水

ちらりハの梧尺付 あま

まよおとくく片藪の志 釣雪

80 盗のつとて味りまをほく あま

祈をををを聞くの神 曾良

盃の香日流をものほ 會寛

暮のいりあくる 梨水

露丸

浴下 落橋舎去來稿

嵐く暮ニ出テ朝カクニ家ニ居テ
人ヲ恐ルハ口ノウラニ疵持テラ
シ山椒ノ眼小豆ノ鼻齒ハ糸ヲ付テ
袖ヲ縫ヘツノ耳ハ木葉ノ芽ニ似
タリ地黄ヲ喰ヘハ毛白ク大東ヲ
嚙ハ口毒アリ尾ヲ切テ錐ノ鞘ト
為ニシテ背腹ニ色ニ目出テ薄ク

濃クモ漆出セリ被カフリタル漆ノ香
ナル壞入ノ繪虚言ナラニ筆ノ用ニ
髣ヲ被ルハ老テノ後ノ悔カ顔ノ
鳥魯ツキタルハ晝氣ナレハ成ヘシ
はくくあまら徒と思へ油を吞ま
世の濁又ひくれば九條の御所
とらんか葉とらん 雲と霞のハ
紅くくくくくくく 命員傳ハ

第のくを候様かき物しを
能くしをすのちとを
志の果を伴うく流平のれと名
何ぞ猶ひし侍人の例のり
祓りし書を焼世の宰相と
神仏の貴と尿くは書に
地獄かゝの昔く曾し
くく子母日の氣と年おる

とをくものちくくはん

ワクく御身力責ヲ思へ牛ハ飛マ
ク虎ハ心猛ケレト下坐ニ立ちリ百敷ノ
賢キモ甲子子ヲ迎ヘテ年ノ早クテ改
玉ヲ春まカヘル遊ニ子日ノ御賀カ
リ子奈上申スイワノ時ヨリハツリケ
ン漢ノ侍ノ歌ニモ洩レス汝もや藤
壺ノ隈ニ住海嵐林たる屋敷ケ

末の^{シヤ}心^{カリ}く^ハ我朝^ハ人^ハ野^ハ荒^トウ
夕^{シヤ}侍^ル麝^香嵐^ハシ^ラヌ^ヒノ^筑紫
ヨリ^外ニ^ユカ^ズ天^井嵐^ハ雷^ヲ鳴^リ
ト^コノ^シ若^ク七^郎ト^ハ申^シ新^花門
ト^右桑^ハ月^代割^テノ^事ナル^ヘシ
大^ノ子^等子^コ子^子等^ヲ廿^日嵐^月ノ^{十二}
ノ^子ヲ^産産^メサ^ノ扇^骨バ^カリ。
誰^カ家^ニ取^尺と^得モ^シ白^嵐冬^ノテ

福^ノ神^ノ使^セシ^モシ^ス
つ^つく^湯月^ガ危^ト思^ハ嶮^ク
城^ト形^ノ筆^ヲも^袖と^シく^セく
謀^カル^ンを^見ク^瘳小^鳥
あ^らん^くや^丸を^丸
い^あい^いい^いい^いい^いい^い
吹^矢又^南北^をも^つる^者ハ^何
あ^らん^く嵐^をま^る丸^ヲも^らハ^日

御洞より家子又一つ瓜文様

煉火の巻葉折し芭蕉が加生

伏所の瀬と流し波の音や珍夕

踏^{キハ}色ぢふ向ひ近江の葛ぬ 尚白

畑折る音やあし^の麻 翁

ふゆ^の留と糸^の下^の竹の 由之

六余と藤^{ヲシ}道^{ヲシ}所^{ヲシ}風喬

うなひ^の鬼灯^の白^の 沾荷

甲陽軍鑑

あし^の信^の傳^の氏^の去^の 去^の 去^の

煉^の火^の伊^の勢^のの^の暮^の 翁

あし^のと^のなる^のの^の宿^のの^の 松^の 風

あし^のの^のの^のの^のの^のの^の 同

あし^のの^のの^のの^のの^のの^の 尚^の 白

あし^のの^のの^のの^のの^のの^の 尚^の 白

雨後

あし^のの^のの^のの^のの^のの^の 山^の 川

八尾御門主

くもくも皆を〜御途官 寂

雪の如く〜火佛の尾骨 同

水鳥のくぐる〜つと字 掃水

ゆくと〜ぬかや霜 金峯

はら〜いもつと〜 新道 翁

雪の如く〜 伏所の翁 宗派

も来〜 僧

新〜 初と〜 色

おの〜 柳の 柳の 儿

若〜 柳の 柳の 柳の

柳の〜 柳の 柳の 柳の

何〜 柳の 柳の 柳の

太〜 柳の 柳の 柳の

仍〜 柳の 柳の 柳の

花〜 柳の 柳の 柳の

五日

五か〜〜
よ〜とPしてあありぬ其
巻のおあす〜
さぶら車一の林へ鹿子
めと〜
い〜
よう〜の巻へ〜
にP〜

あま〜
麻蓬
角

梅〜
つ〜
切徳〜

若木と〜
山川

炭焼〜
雀雨

旅人〜
横儿

その實〜
春魚

一志〜
松翁

福〜
同

十一日
絶景
角

ふ〜
其後

志〜
法荷

あつ蟬とてなけとあてふる不
治荷

はるかにし角まじりて麻子
柵坂立重

田御の虫かまひを

大和らぐりや

春日 柳とて我ら肩をぬら

大文論寺 墨海は獨りこゆる茶摘り

多衣峯 新法をむまにふひり

芽がけり竜田川の楓が

十一日

さみだれなやぐり吉野と出ぬ

十三日

岩翁亭題送蟬

みじくはと隣へて小蟬の足

清涼を想ひつゝはるかに

四草しまたはのそとを巻か

形しひくも先づりぬ初鯉

同美るは竿ぬきじよ木かぬ

十四日

花廿二

枇杷の葉のよれを角のと蝸牛 角

形よりすけぬま枇杷の葉のよれ 岩角

女房のよれを肩のよれ 同

言種と小葉のよれを約茄子 松崗

十五日

お粉のよれを足にたぐり 角

朝乃葛のよれをくわつたに 二ツ

仁和寺のよれ

門のよれをすまのよれをたぐり 同

十六日

志のよれをたぐり 同

梅のよれを網のよれをたぐり 玉兎 角

十のよれをたぐり 同

葉のよれをたぐり 同

甲のよれをたぐり 同

梅のよれをたぐり 同

十七日

この杜国例なりてを
けりてをたぐり 同
磨のよれをたぐり 同

是よりしるはききけるを
おのいあそいんく

羽ぬける鳥をとりて
角

二十八

かき年をみあは
不死の力をとてのり

此舟を老るいなり夕涼
同

二十九

日休解きしゆして
遊ちりしりあそひんく
町にこいけり

いふる子のあは
同

あそいあは
親の子をぬか

三十

涼しいを寐る髪料
心

三十一

市にゆきあそひ

背にの葉を霞る
同

旅人子あそひ
浴商

蚊を火か結分
百里

みしる夜中
氷花

かきゆめく
梨水

三十二

夜讀書

故をすぢの枕より本をすぢ
角

九三日

露泣のさみ
能真行

目のおけく酒吞をるを
清水鬼
同

九四日

旅立人と
あはれ

家下地や園はる夜あつる
同

九五目

茂叔讚

傘の蝶蓮乃を葉の
蛙の
同

九六日

山田昌悦
きしり

汗流ゆよ衣乃茶めいの
ゆがなり
司

夜舟興

管すし橋より覗く茶の山
巴山

又乃寐く
か

夏衣いつるらん老る腹
同

九七日

入湯乃らん
木智とくしり

蟬乃らん
あつる指か
角

木曾川の村の待たし
山

九八日

井ノ子みあふ

解のちきあひしそ

みあつやこころ

解のけし清のを流る

解の長

魚

上代廿五

廿九日 舟興

更の夜思ふのよはえん

一夏半尺

同

夏心摘み片枝葉のゆき

梅のゆ

山

芭蕉翁門他書目録

みどりま里 其角輯 二冊

續みどりま里 同輯 二冊

花法見 同輯 二冊

楚志袋 嵐雪輯 二冊

蛙あし袋 芭蕉其角 素堂仙化輯 一冊

新二百款 其角輯 一冊

波新摺 涼危輯 二冊

